

この頃、テレビのニュースや新聞の紙面に、頻繁に出てくる言葉がある。それは「危険運転」や「あおり運転」という、事故へとつながる可能性の高い危険な運転行為を表す言葉である。なぜ、ドライバーがそのような運転行為に走ってしまうのか、私は疑問に思った。

そのような運転をしてみよう原因とはなんなのだろうか考えた時に、車という閉鎖的空間、すなわち、自分一人になれる空間が車にはあるということだ。人は誰しも他人の目がある場合、自分の考えや気持ちを押しさえて、感情をコントロールするものである。それは、社会生活を送る上で人間関係を円滑に進めるために必要なことである。しかし、ひとたびそのような環境から離れ、一人になれる空間へと入った場合、人はどのように変化するだろうか。人前で言うことのできなかった言葉を発したり、歌を口ずさんだりと、本来の自分を解放してしまうのではないだろうか。

そのような閉鎖的空間である車のハンドルを握るドライバーの方々の中に、他の者の目があった時にコントロールできていた感情が突如、コントロールができなくなり、自分に沸き起こった感情のまま運転をしてみようドライバーがいることは定かである。

その沸き起こる感情の中で、一番やっかいな感情は「怒り」ではないだろうか。自分のペースで運転をしている時に、他の車に自分の運転を害されたと思ひ込み、次第にその思いが怒りへと変わり、その怒りが「危険運転」や「あおり運転」という危険な行為につながってしまうのではないかと私は思った。

では、どうすればそのような突如沸き起こった「怒り」を静め、落ち着かせることができるのだろうか。怒りの感情に身をまかせて発する言動や行為は、他人を傷つけ、運転中であれば事故へとつながり、最悪の場合、死者を出してしまうことになりかねない。事実、すでにこのような危険な運転により、事故を起こし、亡くなってしまう方がいるのだ。少しでもこのような危険な運転を防ぎ、回避するためにドライバーの方々に求められているように私は思う。自分の中にカッと沸き起こった怒りの感情をコントロールするために、まずは怒りを感じたら大きく深呼吸をしてみたりするなどして、怒りを静める工夫をするのも大切だ。

もしも同乗者がいれば、「落ち着いて」や「危ないからやめて」と声をかけて気持ちを落ち着かせることも可能であろう。しかし、中には同乗者も一緒になって怒りを助長する言葉をかけてしまう場合もあるかもしれない。だからこそ、ドライバーの方々は常に冷静で正しい判断ができるよう、心のブレーキのかけ方を間違わないで欲しいと切に願う。

44日間の入院生活を終え、無事に帰って来ました。

入院中、何日か車イスを体験しました。自分では歩けるし、大丈夫と思っていたても看護師さんから見ると、目まじしたり、転んだりするといけないから、「車イスに乗って下さい」と言われて乗りました。看護師さんが、手取り、足取り、しっかりと指導して下さい、乗るたびに付添いして下さいました。自分で、しっかりと乗りこなせるようになって、念のためと言って病室に戻るまで見ていて下さいました。

せまい道や、横断歩道でも、青信号になっても、前見て、左見て、右見てと、しっかりと心にきざみ込んで行動しなければなりません。

高齢者なので、歩いても、車に乗っても交通ルールをしっかりと守っています。

家から、一歩と出た時でも、油断は許されませんが、どんな小さな事でも、気をつけながら注意して歩んで行きます。

家に帰ったら、車イスが買ってありました。「歩けるから車イスいらなののに」と思いましたが、これから使う時あるだろうと買っておいでくれたのです。

初めて車イスを体験して、車イスに乗っている人の気持ちがわかって来ました。

これからも、交通安全に気をつけながら楽しくすごして生きたいと思います。

南達交通安全新聞

「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」

運動期間 平成30年12月10日(月) ~平成31年1月7日(月)までの29日間

運動スローガン 「ハイビーム 上手に使って 事故防止」

- 運動重点
- (1) 高齢者の交通事故防止
 - (2) 夕暮れ時や夜間の交通事故防止(特に、反射材用品等の着用の推進)
 - (3) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
 - (4) 飲酒運転の根絶



第29回 南達交通安全大会



南達一市一村にあつては、交通量が増加しており、これに伴い交通事故の発生が増加する可能性を持っています。

さらに、超高齢社会を迎え、全国的にもお年寄りの犠牲者があとを絶たないことから、事故防止のための抜本的対策を講じる必要性に迫られております。

本大会は、このような情勢をふまえ、南達一市一村が丸となって総合的な交通事故防止対策を推進することを目的とし、11月17日(土)に大玉村の農村環境改善センターで開催されました。

大会では、交通安全功労者及び交通安全作文コンクールの表彰式も行われました。



～交通安全功労者表彰を受ける 登榔尚武さん～



～アトラクション：大玉スポーツ民謡会(左)と YOSAKOI おおたま(右)～

◎表彰状伝達

東北管区警察局長・東北交通安全協会会長連名表彰
 【交通安全功労者】

登柳 尚武 (本宮市)

【優良運転者】
 渡辺記美男 (大玉村)

【交通安全優良学校】
 本宮高等学校 (本宮市)

交通安全賞章 (緑十字銅章)
 【交通安全功労者】
 武田 良一 (大玉村)

【優良運転者】
 石橋 由廣 (本宮市)

菅野 健二 (本宮市)
 菊池 啓治 (本宮市)

県警察本部長・
 県交通安全協会会長連名表彰
 【交通安全功労者】

松山 捷成 (本宮市)
 国分 真一 (本宮市)

菅野 治夫 (本宮市)

【優良運転者】
 渡邊 達也 (本宮市)

片柳 裕二 (本宮市)
 星 次男 (本宮市)

高橋 正晴 (本宮市)
 三瓶 隆弘 (大玉村)

高橋 登 (本宮市)

【交通安全優良学校】
 玉井小学校 (大玉村)

◎感謝状贈呈

前本宮市交通安全母の会連合会会長
 石橋 順子 (本宮市)

◎地域別交通事故防止コンクール

第1位

本宮地区交通安全協会第3分会 (本宮市)

第2位

本宮地区交通安全協会

第3位

本宮地区交通安全協会仁井田分会 (本宮市)

第4位

本宮地区交通安全協会玉井分会 (大玉村)

第5位

本宮地区交通安全協会荒井分会 (本宮市)

第6位

本宮地区交通安全協会大山分会 (大玉村)

◎交通安全作文コンクール

応募総数437点

【小学生低学年の部】

最優秀賞 玉井小学校

優秀賞 糠沢小学校

佳作 和田小学校

玉井小学校

本宮小学校

3年 高松ひより

3年 笠井 楓果

3年 五十嵐美咲

3年 伊藤 大葵

2年 吉田 匠甫

【小学生高学年の部】

最優秀賞 本宮まゆみ小学校

優秀賞 白岩小学校

大山小学校

大山小学校

岩根小学校

大山小学校

玉井小学校

【中学生の部】

最優秀賞 白沢中学校

優秀賞 大玉中学校

佳作 大玉中学校

大玉中学校

【一般の部】

最優秀賞 本宮市

小沼 響希

鍋島 友美

会田 美咲

杉原 佑紀

三浦 隆翔

武内 来夢

諸星 柾人

太田 桃花

渡辺 陽菜

鈴木ちはる

橋本 里依

伊藤 恭子



最優秀作文発表 (小学校低学年の部)
 玉井小学校3年 高松ひよりさん

小学生低学年の部

【最優秀賞】

『みんなで守ろう交通安全』

玉井小学校3年 高松ひより

わたしが、学校にかよう道路は、広い道もありますが、ほとんどがせまい道しかありません。

一年生のころわたしは、はん長さんに、あぶない所はどんな所なのか教えてもらいました。教えてもらったのは二か所ありました。どれも、まがりかどや、カーブが、あぶないのかと思っていました。それでわたしははん長さんに聞いてみました。するとはん長さんは、

「こういう所は、少し前に行かないと走ってくる車が、あまり見えなからこわいんだよ。」

わたしはそのとき、そういえばお母さんが、お父さんもいてくれるのに、どうしてそんなに気をつけてねと言っているのだろう、と思っていました。とくに自転車にのるときは何度も気をつけるように言われます。そのりゆうは、お父さんが車を見ていても、わたしがミラーや車が見えにくいからだったんだなあとわかりました。学校に入ると交通安全教室もあるので知らないことも、よく学べました。さらに、今年交通安全教室で、自転車ののり方を、学習しました。ちよつとたかくてのりづらかったけど、ルールを守ってできたと思います。

急にとび出したり、虫をむ中でおって道路にとび出したりしてしまうこともあります。その場合、車を運転している人は歩いていたり人や走っている人が急にどんな動きをするかよそでできません。もしドライバーが人をひいてしまったら歩いている人や走っている人が悪くても、ひいてしまった人が悪いことになってしまいます。だからわたしはよく気をつけたいと思います。

わたしは、交通じこにあつてけがをしてしまった人もとってもかわいそうだし人をひいてしまつて悪いことになってしまったドライバーも悪いと思うけどかわいそうだとも思います。わたしは、いくら知らない人でも、交通じこやほかのことで人がいなくなつたらとてもかわいそうだと思います。わたしは、おたがいに命を大切に安全に気をつけて、道路を歩いたり自転車ののつたりしたいと思いま

小学生高学年の部

【最優秀賞】

『もしかしたら』をを考えて』

本宮まゆみ小学校5年 小沼 響希

ぼくが自転車で橋をわたつた先の店へ買い物に行った時のことです。曲がり角で知らないおじさんが乗った自転車とぶつかりそうになってしまいました。角には、家が建っていました。自転車の乗ったぼくの頭と同じくらいの高さの生けがき囲いがある家でした。だから曲がり角の向こうが見えず、ぼくは自転車の乗ったおじさんがこちらに向かってくるのに気づきませんでした。ぼくがブレーキをかけて止まったときには、ぼくの自転車のペダルの位置はおじさんの本面にありました。そのため、あぶなくしようとするところだったので、「ドキッ」としました。しかしおじさんはあわててはいませんでした。おじさんも自転車の乗っていたけれど、スピードを落としていて、角の前ではぼくに気がついたのか、ブレーキをかけてすつと止まってくれました。ぼくもスピードを出してはいなかったのに、曲がり角でとつさに止まられなかったのもとてもおどろきました。

おじさんとぼく、何ががったのでしょうか。おじさんは大人だからぼくが見えたのでしょうか。けれども、相手から見えたのなら、ぼくからも相手が見えたはずです。やつぱりおじさんからもぼくは見えなかったのです。そして、おじさんは「角が見えなかった」から注意して運転していたということ。見えない場所から「もしかししたらだれかが来るかもしれない」とか「何かが飛び出してくるかもしれない」ことを考えて運転していたのだと思います。つまり、ぼくがおじさんの「もしかししたら」に当てはまったのです。そして、ぼくがなんとなく注意していた「もしかししたら」は本気の「もしかししたら」ではありませんでした。なぜなら自分が交通事故にあつたことを真げんに考えていなかったからです。「歩行者とぶつかる前に自転車は走りぬけるだろう」とか、「自動車はきけんだから、自動車の方が止まるだろう」とか自分に都合よく考えていました。なので、曲がり角で一時停止をしわすれたのだと思います。

ぼくは、自分がだれかとぶつかるような事故にあつた「もしかししたら」をきちんと考えて行動していなかったことに気がつきました。この体験と反省から、自転車に乗る時は必ず「あるかもしれない」とつ然のもしかししたら」をを考えて、一時停止をわすれずに運転しようと思います。